



## 平成23年3月 マンスリー レポート

集計企業数 59 社

### 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	46,495,565 万円	100.0%	105.2%(103.6%)	44,841,740 万円	102.6%(100.3%)
食 料 品	38,464,709 万円	82.7%(84.0%)	105.7%(104.0%)	36,942,030 万円	102.8%(100.3%)
農 産	5,545,956 万円	11.9%(12.1%)	104.1%(106.2%)	5,330,767 万円	100.8%(102.6%)
水 産	3,775,490 万円	8.1%(8.3%)	98.6%(101.4%)	3,633,201 万円	97.0%(97.6%)
畜 産	4,364,454 万円	9.4%(9.5%)	105.2%(102.9%)	4,154,881 万円	99.8%(99.2%)
惣 菜	3,783,765 万円	8.2%(8.3%)	101.2%(105.4%)	3,626,376 万円	98.0%(101.3%)
日配食品	8,599,569 万円	18.4%(19.3%)	104.4%(103.4%)	8,201,720 万円	103.0%(99.7%)
加工食品	12,395,475 万円	26.7%(26.5%)	111.6%(104.2%)	11,995,085 万円	108.2%(100.6%)
生活関連	3,605,173 万円	7.8%(7.0%)	110.5%(102.7%)	3,535,157 万円	109.2%(100.4%)
衣 料 品	1,535,476 万円	3.3%(3.3%)	94.4%(98.7%)	1,504,409 万円	93.9%(97.8%)
そ の 他	2,890,207 万円	6.2%(5.7%)	98.5%(101.3%)	2,860,144 万円	97.9%(101.2%)

### 数 値

全店総売上高	46,495,565 万円	店 舗 数	4,094 店舗
総売場面積	7,779,509.0 m <sup>2</sup>	総従業員数	217,080 人

店舗平均月商	11,357.0 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,936 円(108.8%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.0 万円(5.6 万円)	平均店舗面積	1,900.2 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	19.8 万円(18.5 万円)	パート比率(前月)	76.4%(76.8%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 全体概況

- ・未曾有の東日本大震災により、今月の販売統計は地震前と震災後では大きく異なる状況でした。震災前は、ほぼ前年通りでしたが、震災後は、被災された東北地方の会員社は店舗の全壊、半壊等の被害を受け、停電によるアイスクリームや冷凍商品の商品被害も多数の店舗で発生した。関東地区を中心に全国で震災と福島原発の影響から買い占め、買いため行動が見られ、米・水・カップ麺・缶詰・パン・乾電池などの商品が品切れで、商品棚が空の状態が続いた。被災したメーカー工場も多く特に包装資材等が入手できず、製造できない商品も多数あった。3月中は、ガソリン不足、放射能汚染、断続的な余震、計画停電と、まだ生活インフラが正常に戻っていない為、商品においても牛乳、ヨーグルト、納豆、乾電池などの不足感があり、お客様にご迷惑をおかけした。
- 売上は、社会不安による買い占め、買いためなどの影響から各社ともにグロッサリー中心に伸び、全店昨比、既存昨比ともに大幅にクリアした。

## 商品動向

### 農産

- ・震災後は、放射能に伴う出荷制限により、特に葉物(ほうれん草など)は大幅に落ち込んだ。一部風評被害もあり福島、茨城県産の農産物は販売しにくかった
- ・果物は、イチゴ、バナナを中心に好調だった。調理せずに手軽に食べれることが要因と思われる
- ・新たけのこや旬野菜は例年より気温が低い影響から出荷が遅れ大幅に前年割れをした
- ・震災後の中旬は、ジャガイモ、玉ねぎ、人参等の根菜類がよく、下旬以降は気温の上昇とともに相場安のレタス、きゅうり、トマトなどのサラダ類が好調だった

### 水産

- ・計画停電の影響からおにぎり・ご飯のおかず需要から塩鮭、鮭フレーク、魚卵が好調だった
- ・三陸の養殖漁業に壊滅的な被害が発生したため、わかめ、めかぶ、ほや、カキなどの今後の相場に影響がでると予想される
- ・気仙沼港の被災により、今年のサンマ漁への影響が心配される。既に冷凍さんまが品薄状況である

### 畜産

- ・豚肉の動きがよかった。特に震災後は国産豚の相場高から輸入豚が好調に推移した
- ・ウィンナー、ソーセージが震災後は高稼働したが、供給が間に合わず品薄状態が続いた。魚肉ソーセージが非常食として大幅に伸長した
- ・挽肉、鶏肉が好調。鶏肉は、鶏インフルエンザの影響を払しょくした

## 惣菜

- ・おにぎり、お弁当の米飯の主力商品は好調だった。特に震災後おにぎりが非常に好調だった
- ・季節商品の動きがよかった。(菜の花胡麻和え、きくらげ酢物、タラの芽てんぷら、ササミ大葉フライ等)
- ・お彼岸のおはぎは、震災後の自粛ムードの中で彼岸を迎えたことで前年を下回った

## 日配・加工食品

- ・震災後は、牛乳・パン・納豆・ヨーグルトなど、ほとんどの商品で品薄状況となり商品手配が出来なかった。
- ・米・餅・カップ麺・袋めん・レトルト食品など長期保存が可能な商品については、買いため、買い占めによりどの店舗においても品切れ状態が続いた
- ・計画停電、被災地への品不足報道などで、全国的に東北地方の親戚・知人への水・カップ麺などのケース単位購入が目立った
- ・冷凍食品は、米飯類、スナック類の売上が顕著に伸びた。放射能問題から冷凍野菜、冷凍ほうれん草の需要が高かった

## ひなまつり・ホワイトデー・お彼岸

- ・ひなまつりは平年並みの動きであったが、国産はまぐりは、相場が昨年より安く販売しやすかった
- ・震災の影響で、ホワイトデー・お彼岸はまったく動きがとれず、自粛ムードとなった

## 震災後3月末から4月上旬の商品動向

- ・ビールは、メーカー工場の被災により、供給不足となり品薄状況であった
- ・メーカー工場の被災や計画停電により、ヨーグルト・納豆は供給が不安定で定番商品は品切れ状態であった
- ・震災直後と比較する全体的に落ち着いたが、一部定番商品の欠品、特売(チラシの自粛)の取りやめて対応した

以上